

# 常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【7月度の御金言】毒と申すは苦集の二諦,生死の因果は毒の中の毒にて候ぞかし。此の毒を生死即涅槃、煩惱即菩提となし候を、妙の極とは申しけるなり。良薬と申すは毒の変じて薬となりけるを良薬とは申し候ひけり。

【大田殿女房御返事】(全集 1006 頁)

## 法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)

創価学会の草創期には、日蓮大聖人の法以外は邪宗であり、自分達が病気になるのも、不幸になるのも、社会の混乱、戦争も皆邪宗のせいであり、世界から邪宗が無くなり、全ての人々が御本尊を受持し、御題目を唱え、広宣流布すれば、この世の中から、病気、悩み、争い、戦争が消滅するのであると指導し、その指導を受けた人々は本気に考え、その為の手段に、嘘や誤魔化し、脅し、強制があっても、正しい法の為にすることなのだから、許される事だと考え、毎日毎日夕食時に、何人もで不幸そうな家へ押し掛けて、入信すると言うまで居座るとか、婦人部の人々が、若い青年に、いい所へ行かない？と声を掛けて、御寺へ連れて行き、御授戒を受けさせるとか、選挙の投票に行かないであろうと思える人物になりすまして投票に行くとか、常識や法律を犯しても、正しい仏法の為にやっている事だと、意気盛んな世直しの英雄の様な気持ちで行動していたのであります。つまり、個人の幸せ、世界の世直しという壮大な現世利益の夢を見て、日蓮大聖人の法が、一切衆生平等成仏の法であるという事は、何も考えなかったばかりか、成仏なんて言う、見る事も出来ない事は言わない方が良く、とにかく、正しい法には最高の力がある。力が有れば幸せにならないわけが無い、現世利益を得られるという事は、正しいという証明である。現世利益を得られなければ、正しいという事にならない。という理屈でやってきたのであります。

戦後の右肩上がり高度経済成長期がバブル崩壊で、それまでの価値観、目的観が見失われ、多様化していきました。当然、創価学会が言って来た事も、バブル崩壊しました。信仰しているしていないに関わらず、生活習慣、遺伝体質によって、誰もが平等に、心筋梗塞、脳梗塞、癌、糖尿病、認知症等々になる事が、一般知識として社会に浸透して行きました。邪宗の為だけに、これらの病気になるのではないのであります。

社会や世界の諸問題も、それぞれ歴史、民俗、利害、先進国、後進国、環境、気候、資源の有無、等々の複雑な絡み合いの中で生じているのであり、宗教だけの問題ではないのであります。もし「広宣流布」が実現しても、紛争が無くなる事は無いのであります。それが証拠に、私達同じ信仰している者同士でも、好き嫌いや諍いはあるのであります。

創価学会は、「謗法厳戒」を止め、地域友好の為には、地域の御祭りに参加協力する様になり、世界平和団体、道徳団体へ看板を取り替えました。選挙も「法戦」と言い題目闘争をし乍ら、国会の場では日蓮大聖人の法を示さないという、矛盾しねじれた姿を、おかしいと思わず、公明党が延びれば世の中が良くなると信じ込み活動しています。社会は、その欺瞞性に気付いていますから、公明党は横這いで衰退していくでしょう。根幹として来た信仰が猫の目の様に何でもありでクルクルと変わるわけですから、日蓮大聖人の法を信仰中心にしている団体ではないからであります。

日蓮大聖人の法は、常不軽菩薩の 24 文字に集約される、法華經の行者として生き。どんな生命にも、仏と平等の生命が具わっているという事を、一言でも伝えて行く事が、本当の折伏です。気が弱くて「信仰に入りなさい」と言えないという人がいますが、言えなくても折伏は出来ます。「私は、日蓮大聖人の法を信仰していますから、神社仏閣何でも拝むという事、供養、協力、御祭り、クリスマスはしません。」と、ハッキリ、しっかり発言し、行動するだけで、「ただ一言でも妙法を伝える」事になるのであります。